

ま え が き

今回採択されました現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）「地域連携プロジェクト型ものづくり活動 ～工都新居浜の活性化プラン～」は、工業都市新居浜の活性化に資するために、「ものづくり人材育成」及び「まちづくり・地域の求心力向上」の2つのテーマに焦点を当て、地域社会と連携した学生のプロジェクト型ものづくり活動を、PDCAサイクルを回しながら継続的に展開するシステムを構築することを目的としています。

本校ではこれまでに、新居浜市内の小中学校教員を対象にしたSPP事業、小中学生・市民・企業向けの出前講座や地域イベントへの出展、地域の文化財等をPRする「平家落人伝説の里案内ロボット」の製作、車いす等の介護機器の修理サービスを行う「NPO法人いきいき工房」の設立、新居浜市・新居浜市教育委員会と連携した「ものづくりのまち新居浜 シンボルロボアイデアコンテスト」の開催など、地域と連携した様々な活動を行ってきました。こうした従来の活動をベースに本事業を展開し、ものづくり人材の育成、地域社会への貢献を一層推進するとともに、継続的な活動として定着させていくことを目指しています。

平成18年度には、それぞれのプロジェクトに学生が参加し、以下のような活動が行われました。

- ・「青少年科学教室プロジェクト」では、地域への出前授業2件、出前イベント5件を実施しました。
- ・「ものづくり教材開発プロジェクト」では、地域の小中学校の教材開発ニーズに関するアンケート結果を基にものづくり教材のテーマを絞り込み、5グループで10件計画し、うち2件について試作を行いました。
- ・「まちづくりシンボルロボプロジェクト」では、シンボルロボアイデアコンテストで入賞したアイデアの中から、実現可能なアイデア2テーマを選び、卒業研究等としてプロトタイプの構想・設計に取り組みました。
- ・「商店街活性化パフォーマンスロボプロジェクト」では、新居浜市内の2つの商店街組合等と連携して、アイデアを募り、「熱血あきんど君」ロボット及び「キツネ」ロボットの2テーマの試作を開始しました。

これらのプロジェクト活動の内容について、学生が成果発表交流会の場でパネル展示や口頭発表を行うなど、プロジェクト参加学生に対して大きな教育効果を上げることができました。

本事業は平成18年度からの3年間の事業で、平成18年度は発進の年、平成19年度は飛躍の年、平成20年度はまとめの年と位置づけています。来年度の飛躍に向けて、さらなる活動の展開を図っていきたいと考えていますので、関係者の皆様の一層のご協力とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成19年3月

現代GP事業推進責任者

ものづくり教育支援センター長 谷口 佳文